

スズメダイ類の産卵

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館



壁面に産み付けられた卵の前で他の魚に
にらみをきかすオヤビッチャの雄
(水槽番号410-2、3)

白浜水族館では毎年夏に、オヤビッチャ、ロクセンスズメダイ、シマスズメダイ、イソスズメダイ、テンジクスズメダイなど、2〜4センチほどの幼魚を付近の潮だまりですくい捕る。これらはスズメダイ科オヤビッチャ属の南方系の魚たちで、どれも背中からおなかにかけて5本以

上の黒っぽいしま模様のあるのが特徴だ。

2年ほど飼育展示し、15センチ以上に達して成熟した魚たちは、5〜10月に水槽の壁面やフロ

雄が卵の世話と保護

ックの穴などに産卵する。スズメダイ科魚類では、雄があらかじめ準備した産卵場所に不特定の雌を誘い込んで産卵させ、その雄が卵の世話と保護をする、という繁殖の仕方が一般的だ。

オヤビッチャ属のスズメダイも同様である。まず、繁殖期になると成熟した雄は、サンゴの

根元や岩の表面に縄張りを構築え、口で突ついたり、ひれであおったりして付着生物や泥を掃除し、産卵場所の準備をする。次に、群がっている雌に向かって特有の求愛行動を示す。つられて産卵場所にやってきた雌は、産卵管をのぼして多数の卵をすき間なく産み付け、雄もその上に精子をかける。産卵を終えた雌はその場を離れるが、雄はひれであおって新鮮な海水を送ったり、近づいてくる他の魚

0日間、卵の世話と保護に専念したことになる。

水族館に来られた時は、産卵場所の準備や卵の世話と保護をしている雄の行動、体色の変化、卵の大きさ、その量、色など、水槽に寄り掛かってじっくりと観察してみたいかがだろうか。運がよければ、まさに産卵しているところに出くわすかもしれない。

(京都大学技術職員)